

流星は、地球に飛び込んできた微小天体が上層の大気と衝突して発光する現象であることはよく知られています。

肉眼ではスーッと流れる一筋の白い光の線にしか見えないのですが、デジカメで撮影した写真を拡大すると流れる途中で色が変わっていることが分ります。



流星の色の变化



ふたご座流星群 小山市思川河川敷、魚眼レンズ 2018.12.14

普段見える突発的な流星の他に、毎年同じ日時に、特定の星座の方向から放射状に流れる流星群があります。それぞれに名前が付けられていて、

しぶんぎ座流星群（1月4日）
ペルセウス座流星群（8月12日）
ふたご座流星群（12月14日）

などです。

特にふたご座流星群は、条件が良くと流星雨となって全天に広がって流れることがあります。

流星は一瞬の現象ですが、人々は昔から暮らしの中に多様で豊かなかわりを育んできました。

『枕草子』にも“よばいぼし”として登場しています。音も無く忍び込んでくることから、夜這い星という呼び方をしたようです。

また、願い事をかなえてくれるものとしての期待、不吉なものとしての恐れ、などが今も各地に伝承されており、ホシノヨメイリ、ナガレモン、ホシクソ、などと日常の生活と重ねあわせて呼んでいた地域もあります。

— 終 —



ふたご座流星群 小山市思川河川敷、2012.12.14
 3時間ほどの間に数百個の流星が全天に観測できました。